

目的 好きな通学服や外出着に対して各人はそれぞれあるイメージをもっており、また自分自身に対してもあるイメージをもっている。これら両イメージの関連性を検討するために、通学服・外出着に対する評価値を別々に数量化理論第Ⅲ類を用いて分析し、抽出された軸についてのサンプル・スコアを自己概念の測定項目別あるいは自己概念の特性別に算出した。

方法 好きな通学服と外出着のイメージを13組の形容詞対で、自己概念を24組の形容詞対で測定した(短大生202名対象に、'88年7月実施)。各評定結果は別々に数量化Ⅲ類により分析し、自己概念の項目別あるいは自己概念の各軸別にサンプル・スコアの大中小により対象者を3群に分け、その群によって通学服、外出着の各軸のサンプル・スコアに違いがあるかどうかを検討した。

結果 Ⅲ類による分析の結果、通学服は「目立ち／無難」「マニッシュ／フェミニン」の2軸が、外出着について「目立ち／無難」「若々しさ／大人っぽさ」の2軸が抽出された。自己概念は「向性」「誠実性」「情緒性」「感性」の4軸が抽出された。自己概念の各軸のサンプル・スコアの大中小によって通学服、外出着の各軸サンプル・スコアの平均値に違いがあるかどうかを分散分析した結果、「向性」では通学服、外出着の「目立ち／無難」に、「誠実性」では通学服の「目立ち／無難」と「マニッシュ／フェミニン」に、「感性」は通学服の「目立ち／無難」と「マニッシュ／フェミニン」、外出着の「目立ち／無難」に違いがあることがわかった。